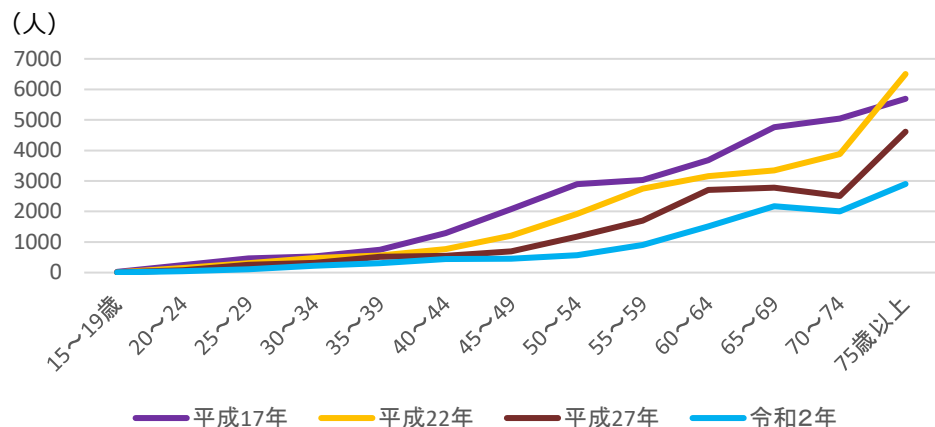


9. 茶産地の現状①

- 年齢別基幹的農業従事者数は年々減少するとともに、平成12年には51%であった65歳以上の割合が、令和2年には61%と高齡化が進展。
- 機械化が困難である傾斜地では面積当たり労働時間が平坦地と比較して長く、特に摘採時期の労働負荷が大きい。早生、晩生の品種導入により摘採期の分散を図る地域も見られる。

【年齢別基幹的農業従事者数（茶）】



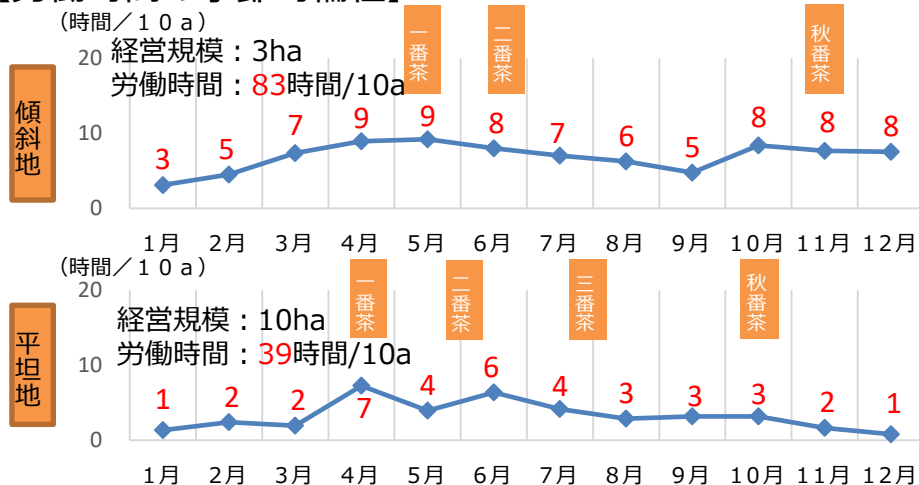
資料：農林水産省「農林業センサス」（組替集計）
 注：工芸農作物の「単一経営経営体」のうち販売目的の茶を栽培する年齢階層別基幹的農業従事者数をグラフ化。

【主産県における販売目的の栽培経営体数（農家数）の推移】（経営体、戸）

	静岡	鹿児島	三重	京都	福岡	宮崎	熊本	全国
H12	24,019	4,309	4,598	1,330	2,217	820	1,277	53,687
H17	17,731	3,072	2,294	1,035	1,629	642	973	37,617
H22	13,933	2,216	1,455	825	1,385	513	695	28,116
H27	9,504	1,599	941	631	962	373	512	19,603
R2	5,712	1,081	569	473	631	297	329	12,325

資料：農林水産省「農林業センサス」（H27以前は販売農家数、R2は個人経営体数）

【労働時間の季節的偏在】



【産地別の品種構成（%）】

	鹿児島	静岡	京都	全国
ゆたかみどり（早生）	26	0	...	7
さえみどり（早生）	16	1	1	6
さやまかおり（やや早生）	2	2	1	2
やぶきた（中生）	29	88	53	64
さみどり（中生）	...	0	9	1
おくみどり（晩生）	5	1	12	4
その他	22	8	24	16

農林水産省調べ（令和6年度）

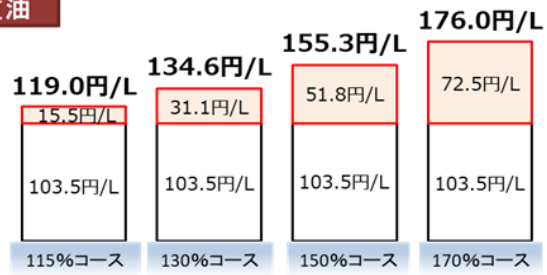
10. 茶産地の現状②

- 経営費に占める燃料費の割合の高い茶において、**計画的に省エネルギー化等に取り組む産地を対象に、農業者と国で基金を設け、燃料価格が一定の基準を超えた場合に補填金を交付するセーフティネット対策を実施。**
- 令和7年度補正予算において基金への積み増しを実施。

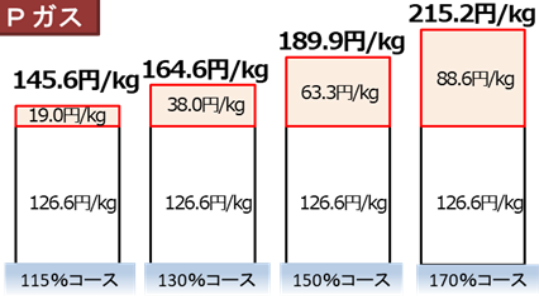
茶セーフティネット構築事業

- ① 支援対象者は、セーフティネットの積立水準と燃料購入数量を設定し、補填積立金を納入(国と生産者が1:1で積立)
- ② 省エネルギー等対策推進計画の目標達成に向けて取組を実施し、燃料価格が一定価格(令和8年度はA重油103.5円/L、LPガス:126.6円/kg、LNG:87.7円/m³)を超えた場合に補填金を交付。
- ③ 燃料価格が一定基準を超えた場合、補填対象数量を当月購入数量の70%から100%へ引き上げ(急騰特例)。基準価格は、A重油133.5円/L、LPガス153.4円/kg、LNG115.0円/m³

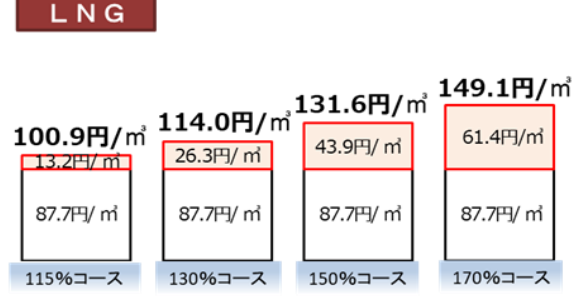
A重油



LPガス



LNG



補填積立金 = 積立単価 × 燃料購入予定数量 × 1/2

(参考) 加入状況

燃油契約数量(kL)※1	
令和7年	令和8年
60,889	60,686

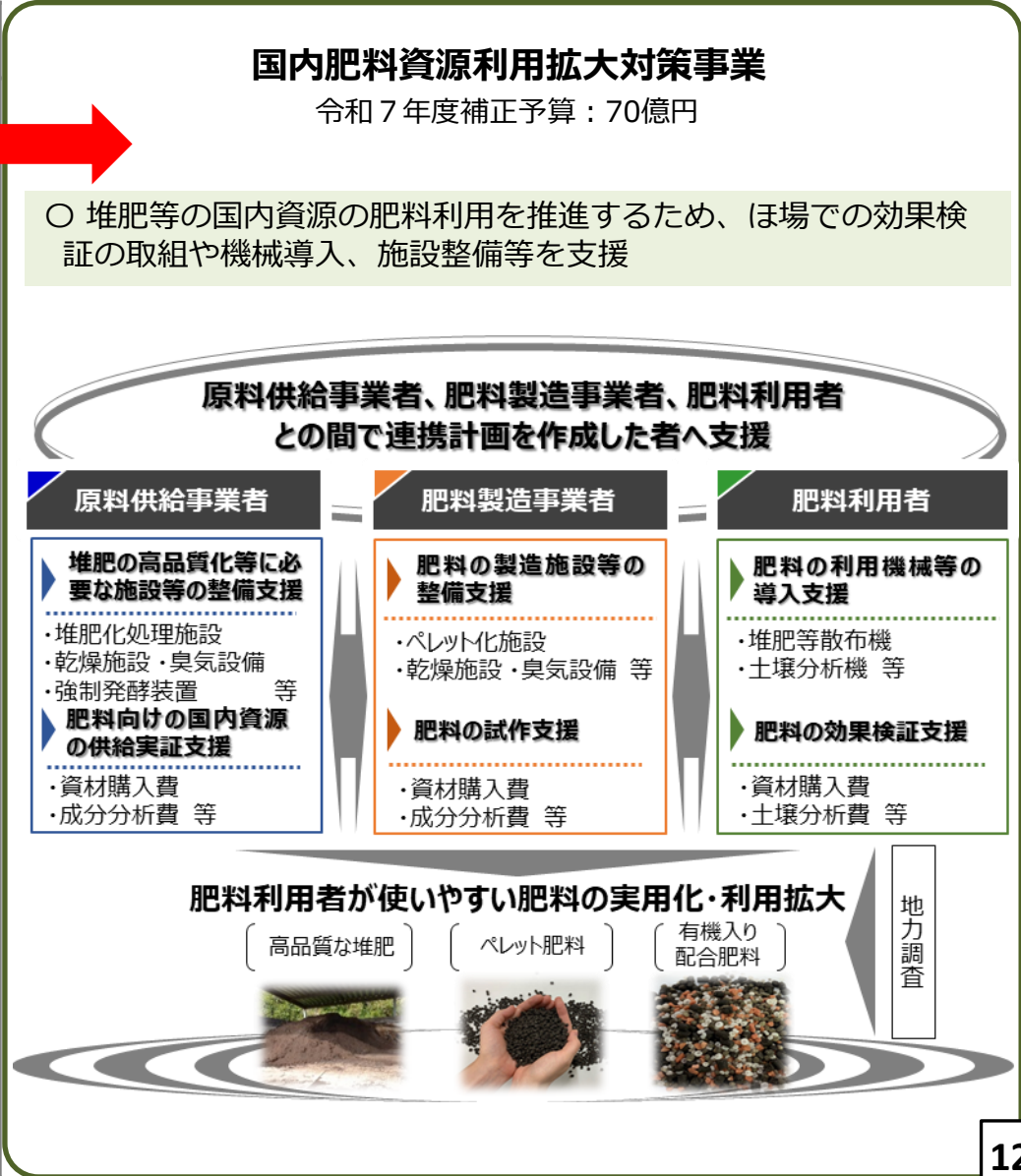
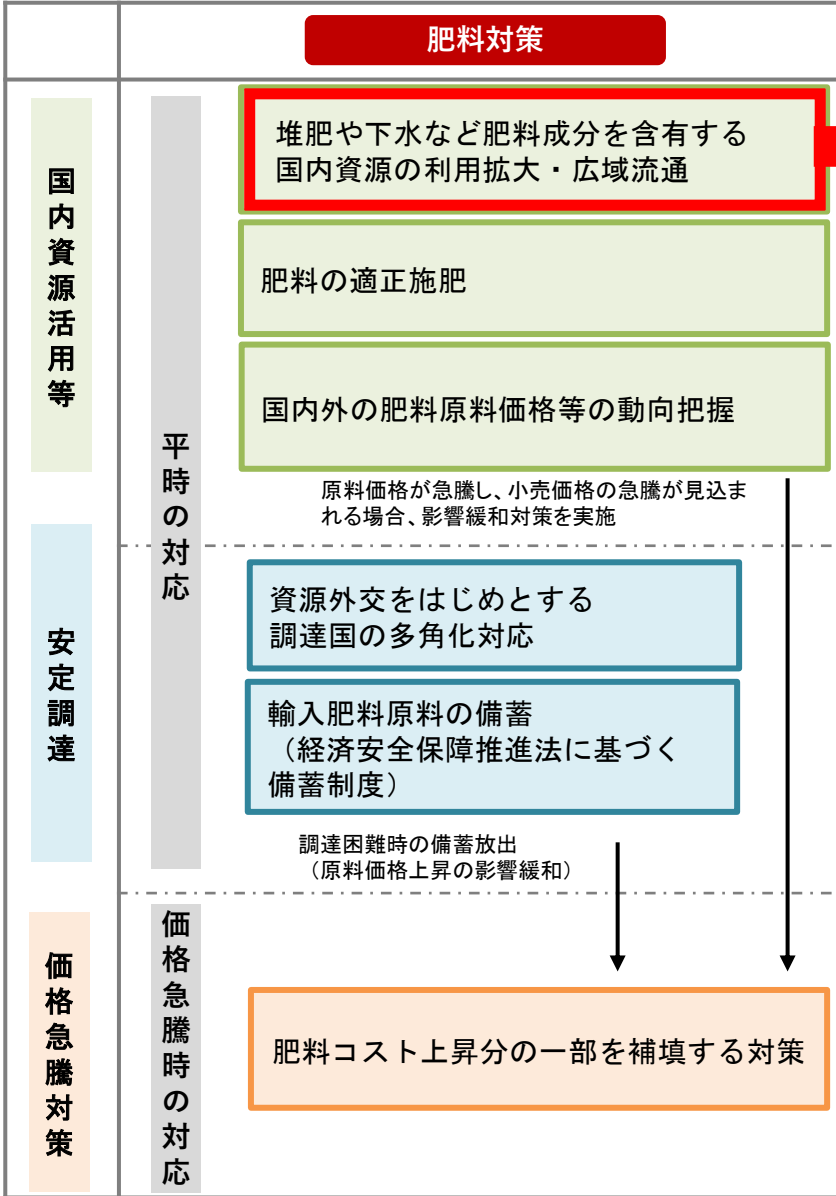
燃油契約数量(%)※2	
令和7年	令和8年
81	81

※1 契約数量は、計画に基づく数値。
 ※2 加入割合は、令和7年産の荒茶生産量に対する割合で計算。(荒茶1kg当たりA重油を1L使用すると仮定して計算)

資料：農林水産省調べ

11. 茶産地の現状③

○ 令和3年の肥料原料の輸入の停滞や輸入価格の上昇を受け、国内資源の活用、原料の安定調達、価格急騰対策の観点から**肥料対策を構築**。



12. 茶産地の現状④

- 全国の茶園の約4割が中山間地に位置している。また、乗用型機械は約7割であるが、傾斜などの要因から導入が遅れている地域もみられる。
- 茶園の約4割が、樹齢30年以上と老園化し、収量、品質の低下が懸念。改植等への支援の実施面積は全体の約2割。

【農業地域別茶栽培面積の動向（令和2年度）】

		R2(ha)	急傾斜の割合
全国	平地	13,703	
	中山間地	10,974	
	中山間地割合(%)	44.5	
静岡	平地	6,306	傾斜度15度以上の茶畑は中山間地のうち5割*であり、乗用機械の導入が困難 *平成6年時点
	中山間地	2,602	
	中山間地割合(%)	29.2	
鹿児島	平地	3,813	中山間地においても傾斜度は小さく、基盤整備が進んでいるため、ほとんどの地域で乗用型機械の利用が可能
	中山間地	3,198	
	中山間地割合(%)	45.6	
京都	平地	151	傾斜度15度以上の茶畑は全体の15%* *令和4年時点
	中山間地	863	
	中山間地割合(%)	85.1	

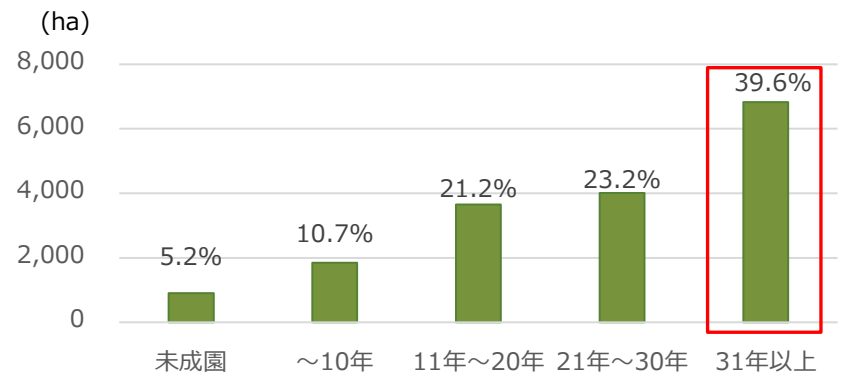
資料：農林業センサス及び農林水産省調べ

【乗用型摘採機の導入状況（令和6年度）】

	台数	導入面積ha	導入割合%
鹿児島県	1,339	7,999	98.1
静岡県	3,734	11,202	87.5
京都府	123	321	21.4
全国計	6,804	24,625	70.2

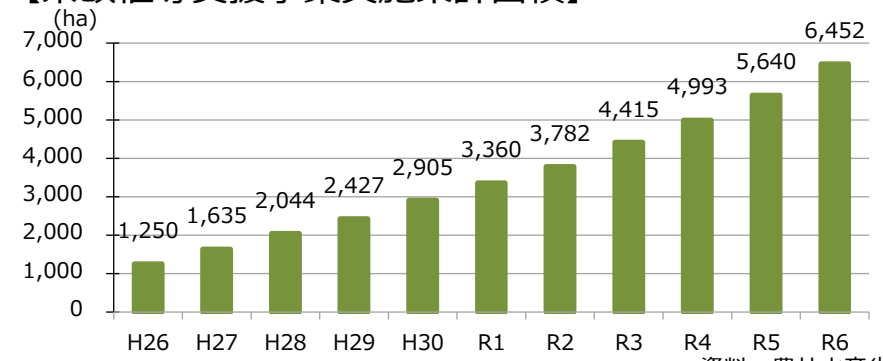
資料：農林水産省調べ

【樹齢別の茶園面積（令和6年度）】



資料：農林水産省調べ

【茶改植等支援事業実施累計面積】



資料：農林水産省調べ

改植では、

- ・ 茶園の若返りによる品質・生産力の向上が期待。
- ・ 優良品種の作付けによって、付加価値向上。
- ・ 品種の組み合わせにより、作期を分散させ、収穫・加工作業の集中化を回避。

13. 生産力強化に向けた取組（スマート農業の展開）

- スマート農業技術を生産現場に導入・実証する**スマート農業実証プロジェクト**において、茶については、静岡県、京都府、長崎県及び鹿児島県の**5地区6課題の実証を実施**。
- **スマート農業技術活用促進法**（令和6年10月施行）に基づき、農業の生産性の向上を図るための「生産方式革新実施計画」及び「開発供給実施計画」の2つの**認定制度を創設**。

スマート農業実証プロジェクト優良事例

鹿児島堀口製茶(有)

〈実証面積〉
116ha（鹿児島県志布志市）

〈課題〉
高齢化と労働力不足が深刻なため、茶業全体のスマート化が必要。

〈実証内容〉
ロボット茶園管理機の導入等により作業時間を40%以上削減、品質と収量の最適化を図る茶生産情報の一元化と経営の見える化を達成。さらにローカル5G技術を活用して、ロボット農機の遠隔監視自動運転により摘採等の作業時間を56%削減、ドローンによる空撮データの伝送・解析時間を4G比で約半分に短縮等の効率化を達成。



ロボット茶園管理機



情報の一元化と見える化

「スマート農業実証プロジェクト」パンフレットにより作成

開発供給実施計画認定

有機栽培茶向けの栽培管理システムと連携した蒸気による防除・除草作業機

〈申請者（代表者）〉
カワサキ機工株式会社

〈計画の実施期間〉
5年間

〈取組概要〉
有機栽培茶向けの栽培管理システムと連携した蒸気による防除・除草作業を可能とする乗用複合管理機の開発及び供給



蒸気を畝間に吹き付け 畝間の雑草が枯死

〈本技術による生産性向上の効果〉
「果樹・茶作」の「除草及び防除」のうち、「急傾斜地等の不整形な園内における自律走行除草機等の除草作業の省力化に資する技術」により労働時間80%削減に資する技術

14. 自然災害等のリスクへの備え

- 茶生産においては、凍霜害、寒害、降灰等の自然災害のほか、販売価格の下落等のリスクが存在。
- こうしたリスクに備えるため、**農業保険（収入保険、茶共済）の普及促進**の取組を実施。

【収入保険（茶）の加入状況】 (経営体)

R2	R3	R4	R5	R6
642	1,483	1,742	1,845	1,847

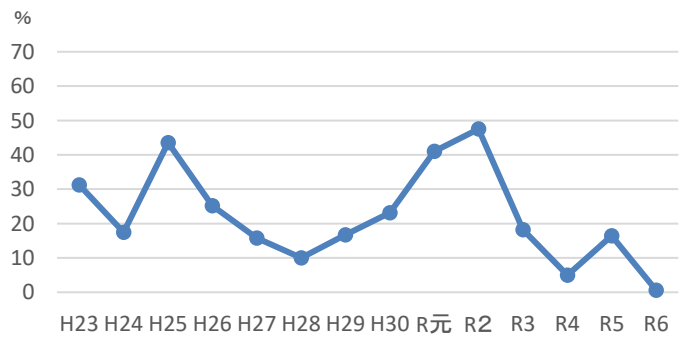
資料：農林水産省経営局保険課調べ

【農業保険（茶）の加入率の推移】 (%)

	H30	R元	R2	R3	R4	R5	R6
加入率	2.7	6.0	15.7	38.0	42.8	47.5	48.5

資料：農林水産省経営局調べ (加入率：加入面積/栽培面積)
 ※H30年産までは、茶共済の加入率である。

【茶共済における戸数被害率の推移※】



資料：農林水産省経営局保険監理官調べ (戸数被害率：共済金支払戸数/加入戸数)
 ※茶共済の実施県は、埼玉県、神奈川県、静岡県、京都府、愛媛県、高知県及び宮崎県の7府県 (R6実績)

【収入保険加入者の声】

「収入保険を活用し、経営を継続」
 【静岡県静岡市 清照由苑 代表 鈴木 照美さん】



両河内茶を守ろうとがんばっていた主人の思いを引き継ぎ、茶農家を継ぎました。
 収入保険には2022年から加入しましたが、記録的な大雨をもたらした2022年9月の台風15号で、茶畑の一部が崩れたり、わさび田が埋まったりと、大きな被害を受けました。
 災害復旧作業により直販ができず、収入が大きく落ち込みましたが、収入保険のつなぎ融資を活用し、経営を継続することができました。もしもに備え収入保険に加入していて、本当によかったです。
 (農業共済新聞2023年3月15日より要約)

「収入保険は、自分でどうにもできないときの備え」
 【京都府和束町 西山 生光さん】



2019年4月上旬に、収穫直前の一番茶に大きな霜の被害を受けたことから収入保険への加入を決めました。
 2020年は新型コロナウイルス感染症の影響で茶の価格が大きく下がり、収入も例年の半分まで減少しましたが、保険金を受け取ることができたので助かりました。ここまで経営に影響があると思っていなかったので加入していてよかったです。
 今年の収入がだめでも、来年に向けての準備を整えることができる収入保険は、万が一に備えられて安心です。
 (NOSAI京都広報紙「京彩」2025年新年号より要約)